

～今季ドカ雪は降るでしょうか、、、本年もどうぞ宜しくお願いします。～

ザックリと

<今月もこのテーマです>

お話しします

心理検査と知能検査について

前は「**継次処理(ナビタイプ)**」と「**同時処理(地図タイプ)**」について触れました。今回はより細かい尺度についても触れていきます。

継次処理優位タイプの場合分かりやすい伝え方は、段階的に順序立てて、部分から全体へという方向です。例えば掃除の仕方を教えるときには、ひとつひとつ順序立てて情報を提示します。

- ① ぞうきんをしぼる
- ② 端から腰を落として拭いていく
- ③ 少しずつずれて往復する
- ④ 全体を拭いたらぞうきんを洗って片付ける

同時処理優位タイプの場合は、掃除の目的や掃除の終わった状態がイメージできるような説明をして、写真や絵でぞうきんの絞り方や教室の床の拭き方等を全体的・視覚的に示します。



→この2つの認知特性の見方で捉え、さらに「**計画尺度**」「**学習尺度**」を算出します。

今月のポイント「計画尺度」について

「計画尺度」とは？

物事を予測して推論したり見通したりする能力のことです。簡単に言うと計画を立てる(見通しをつける)能力のことです。この能力が強ければ、新しい場面で何をどうしたらどうなるかという見通しが立ちやすくなります。計画尺度が低い子どもの場合、自分がこれからどうなっていくのかを予測するのが難しく、新しい場面では何をしたらいいのか分からなくなってしまう、結果的に「何やっているの?」「真面目にやっているの?」と誤解されてしまいます。

計画尺度が低い人に対しては、その人が継次処理なのか同時処理なのかを把握した上で、これからおこることを得意な処理能力に合わせた方法で具体的に教えてあげると、失敗することが減り、自尊心が傷つく体験も減ります。

例えば「掃除をしておいて、何をどうするかは自分で考えて」と指示しただけでは、固まってしまう行動が起こせなくなるかもしれません。継次処理の子どもには順序立てた掃除の手順表、同時処理の子どもには掃除の全体図を示す等の支援を考えていきましょう。

☆次回は「**学習尺度**」について説明します。